6月の道内景況 情報連絡員レポート

引き続き物価高への対応や人手不足への懸念は続いている。

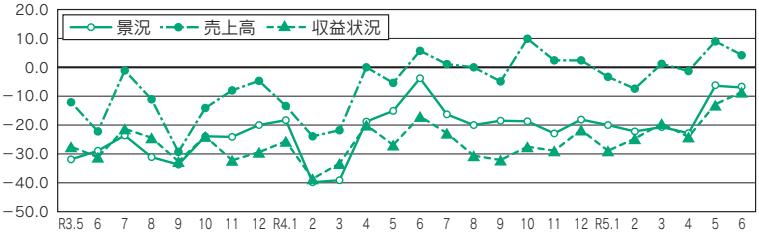
概 況

前年同月の比較では、「景況」、「売上高」で低下している一方、「収益状況」は改善している。依然として、「景況」は前年同月水準には戻っておらず、マイナス値の推移となっている。また、「売上高」はプラス値の推移で改善傾向にあり、「収益状況」は直近2か月で改善している。

情報連絡員によると、製造業は、原材料価格の高騰や電気料金の値上げによる影響が依然続き、収益を圧迫しているとの報告があった。非製造業は、コロナの5類移行により、人の流れが活発となり、道内各地で催し物が開催されているものの、買い控えの傾向が見られているとの報告があった。

また、幅広い業種から、物価高騰による経営への影響のほか、人材の確保に苦慮しているとの声が寄せられている。

主要 DI の推移



景況天気図（前年同月比）

	全業種			製造業			非製造業		
	5月	6月	前月比	5月	6月	前月比	5月	6月	前月比
業界の景況	△6.4	△7.0	△0.6 ↘	△23.1	△29.2	△6.1 ↘	1.9	4.3	2.3 ↗
売上高	9.0	4.2	△4.7 ↘	7.7	△8.3	△16.0 ↘	9.6	10.6	1.0 ↗
収益状況	△12.8	△8.5	4.4 ↗	△23.1	△29.2	△6.1 ↘	△7.7	2.1	9.8 ↗

	全業種			製造業			非製造業		
	5月	6月	前月比	5月	6月	前月比	5月	6月	前月比
販売価格	32.1	32.0	△1.1 ↘	30.8	20.8	△9.9 ↘	32.7	36.2	3.5 ↗
取引条件	△9.0	△7.0	1.9 ↗	△7.7	△8.3	△0.6 ↘	△9.6	△6.4	3.2 ↗
資金繰り	△5.1	△1.4	3.7 ↗	△7.7	△4.2	3.5 ↗	△3.8	0.0	3.8 ↗
雇用人員	△6.4	△8.5	△2.0 ↘	3.8	0.0	△3.8 ↘	△11.5	△12.8	△1.2 ↘

（凡例） 30以上　10～29　9～△10　△11～△29　△30以下

天気図の見方　各景況項目について調査月と前年同月を比較して、「増加」（または「好転」）したという回答（構成比）から「減少」（または「悪化」）という回答（構成比）を差し引いた値（DI）をもとに作成。天気の表示は凡例のとおりです。

製造業

窯業・土石製品

●6月の生コン出荷量はおよそ 302 千 m^3。（前年同月比 102.2%）

・地域別には、前年同月を上回った分会は 27 分会中 13 分会で、前年（9 分会）を上回った。前年同月と比較して、増加したのは千歳地区、札幌、西十勝など。一方、減少したのは宗谷、上川北部、富良野地区などであった。（全道）

●十勝地域では、公共事業の減少や飼料高騰による農業関連投資の削減などから生コンの需要が落ちており、特に砂の在庫を多く抱えている状況。

・販売価格は上昇しているものの、原油価格の高止まりや電気代の高騰などにより収益は減少している。

・従業員の高齢化が慢性化しており、若い人材の確保は依然として難しくなっている。（全道）

●今月も大型物件が少ない中で、受注できていた官庁物件（学校）の残工事の売上が上昇し、昨年の実績を上回ることが出来た。しかしそれ以外は中小規模の改築や新築住宅向けの売上ばかりである。

・元請けからの大型物件の硝子工事の指値が非常に厳しい。その要因は大型販社の安値受注競争と言われている。

・メーカーとその販社はその場の売上の確保に走り、施工店を育成するどころか、潰そうとしているような業界の状況である。例えば、何 m^2 以上の物件は技能士でなければ現場に入れないなど規制を厳しくし、施工単価の底上げに官民挙げて取り組まなければ、ガラスを施工できる職人が誰もいなくなってしまう。（全道）

その他

●味噌出荷量（道内）；単月（令和５年５月）　前年対比　103.3%
　　累計（１月～５月）　前年対比　95.3%
　醤油出荷量（道内）；単月（令和５年５月）　前年対比　107.4%
　　累計（１月～５月）　前年対比　103.4%
　味噌出荷量（道内）；累計（１月～４月）　前年対比　94.6%
　醤油出荷量（道内）；累計（１月～４月）　前年対比　97.8%

・令和５年５月の道内単月の出荷量は、味噌・醤油とも前年対比増加。味噌の累計（１月～５月）実績は、悪い。醤油の累計（１月～５月）実績は、良い。

・毎月のように原価に関連する仕入れ商品が値上がっており、厳しい状況にある。

・７月以降も、購入する国産米・外国産米の価格が上昇することがすでに決まっており、主原料価格についても落ち着く気配が見えない。（全道）

●６月期のトドマツ原木の工場への入荷は、順調に推移しており、落ち着いている。一部に入荷量の少ない地域もあるが、在庫が不足している状況にはなく、市況については、弱保合～強含みで推移している。また、国有林材のドドマツ一般材の一部が不落となっている状況にあり、各製材工場は、受注が思わしくなく、流通業者も低価格での注文であることから大径材が敬遠された。

・６月期のカラマツ原木についても、トドマツ原木と同様に順調に推移している。先月に引き続き、需要が落ち込んでいることから、原木不足は解消され必然的に在庫が増えており、市況についても弱保合～強含みで推移している。また、国有林材のカラマツ一般材の一部が不落となっている状況にあり、4.00m 材は、道内及び本州方面の合板工場が引き続き生産調整をしている。また、これまでの在庫が港に溢れていることにより、買い控えが起きている。しかしながら、一部でカラマツ一般材が落札されており、小・中径材は良いが、大径材では価格が合わないことから敬遠されている。なお、国有林におけるトドマツ及びカラマツの上記状況に鑑み、民有林材についても今後取引が苦しくなることが予想され、3.65m 材の出材に切り替える傾向にある。

・トドマツ製材市況は、先月に引き続き景気後退等の影響により、住宅需要が芳しくないことから、受注は減少している。産業資材も減少傾向で推移している。価格は弱気配～保合の状況にあり、カラマツラミナーについても、減少傾向で推移している。また、市況はカラマツ、エゾ・トドマツは弱含み～保合が見込まれる。紙原料は、不足気味で原料材価格が上昇しており、原料の取り合いが全道的に見られている状況であるが、国内チップ買取価格の上乗せはなく、希望価格にほど遠い状況が続いている。木質バイオマス原料については、順調に集荷されている。先月に引き続き地域によっては大口発電や小口発電が動き出していることから不足している。（全道）

●５月と同様にパッとしない状況が続いている。観光客は動いているようで、飲食店も賑わいを取り戻しつつあるように感じるが、買い控えのせいか受注が伸びない。

・人手不足がいっそう強まっていると感じる。コロナでやめた会社や飲食店がたくさんあるはずなのにサービスが低下している。需要期に入るが、今後の動向が不安である。来期の求人についても、不安定な景気動向では考えさせられるものがある。（全道）

●複数回に及ぶ原材料（紙類）の値上げがあり、価格転嫁に苦慮している。（札幌）

●一部の組合員には発注回復の動きがあるが、電気料金の大幅な値上げには苦慮している。（札幌）

非製造業

卸売業

●取扱商品により売上高の増減は対照的であるが、一般雑貨・検査機器・事務機器等の減少幅が大きく全体を引き下げた形となった。

・物流 2024 問題を前に運賃の値上げ要請が大きく、収益の足を引っ張っている。

・機械設備では現場技術者の人手不足が顕著となっている。

・組合施設の会議室・展示室需要はコロナ以前を上回る回復状況で好調な稼働率となっている。（札幌）

●令和５年５月期の当組合買付高は仲卸、荷受 1,691,166 千円で、先月の５月期実績額 1,439,418 千円より 251,748 千円ほど増加した。
・中元用物資の取引が動き出したことに加え、先月に比べゴールデンウィークの日数分稼働日が増えた形になった。
・沖縄を中心にコロナ感染症第９波の懸念もあるが、まずは取引の増大化に期待を寄せたい。
・今後７月の中元商品取引の本格化によって扱い高の増加が見込まれるが、今後のコロナ感染症の収束を願うばかりである。
・電力料金の値上げによる経費の増額が気になるところである。（札幌）
●全道区で６月の気温が高くならず、夏物機器であるエアコン類商材の動きが悪く、在庫量も増加している。（全道）

小売業

●前年比較　物販見込　97.6%
　　金　融　　93.5%
・各種イベントが行われ、観光地をはじめ中心市街地に人通りが増加し活気が戻ってきた。消費については相次ぐ値上がりと電気料金の大幅値上げから人流と比例しての伸びは感じられない。業種別では家電が 62%・自動車整備が 69%と金額の大きい売上が減少している。（旭川）
●今年も帯広市内中心部の平原通（西２条通）と広小路（アーケード街）で、歩行者天国が始まった。中心市街地の恒常的な賑わいを目指し、９月 10 日までの毎週日曜日に全 12 回開催するもので、子供たちのダンスパフォーマンスや大道芸、マジックや雑貨市など、さまざまな催しが繰り広げられる。初日の６月 18 日は、青空が広がり心地よい気候にめぐまれ会場は多くの家族連れで賑わっていた。このようなイベント効果で、多くの市内外のお客さんが集まることにより、百貨店が閉店した市内中心部商店街にも活気を取り戻し、集客につながることを期待したい。（帯広）
●今月も観光客が多く来場している。コロナ前は観光バスで立ち寄る観光客だったが、現在は、目的があってレンタカー等で来る観光客が増えており、各店の売上も良くなっている。地元客は平日は控え、特売日にめがけての来場が多い。（小樽）
●昨年同月より仕入価格が下がっているため、収益は上昇している。しかし、節約のためか売上数量が落ちているので、経営状況が好転したとは言えない。（稚内）
●６月についても前年並みとの回答が多い中、先行きの不透明感から思い切った業種転換を考えるケースも出ている。各組合員においては現状維持がやっとのところや違った方向へ舵を切るなど、１年の半分を過ぎたところで様々考えている状況である。また、コロナ禍における国からの低金利貸付も返済開始にあたりこの先の資金繰りを懸念している。
・現在の事業内容は携帯電話販売業、旅行業、保険業だが、旅行業が若干の上向き以外は依然厳しい状況が続いており、営業体制の改編も視野に検討をしている。（釧路）
●６月１日の WTI 原油価格は 70.10 ドルで先月から見て 5.56 ドルの反落でスタートした。これは、中国の経済指標が低調だったことが主要因とみられる。その後、米国の債務不履行を回避し、米経済の底堅いとのことから反発、その後も中国・米国の経済指標から反落、反発を繰り返し、30 日の WTI 原油価格は 70.64 ドルとなっている。
・６月は国の元売りへの補助で原油価格も大きな変動なく、末端市況はほぼ横ばい状態で推移した。
・毎月のごとく量販店の価格に追従せざるを得ない状況から利益は圧縮状態となっている。
・６月からは元売りに対する補助が 10%減額、以降２週ごとに 10%追加減額となることから、（補助額の縮減）７月以降の原油価格変動により、末端価格が大きく変動する可能性がある。（旭川）
●６月に入っても売り上げは芳しくない。物価高の影響で必需品以外の物にはお金は掛けられないということか、全国軒並み同じ状況である。（全道）
●今月は、「全国旅行支援」の電子クーポン利用が順調に推移し、また、JRA 函館開催やクルーズ客船の入港と国内外問わず大変多くの観光客が来場し、連日賑わった。また、昨年から再開となった函館マラソンにも、エイドステーション対応の協力として、当団体が「一口海鮮丼」の振る舞った。フルマラソンコースのフィニッシュ前の第 12 エイド（フル 35.8km 地点）で、2000 食以上を提供し、これを目当てに参加した方もいたほど、皆に喜ばれた。函館朝市協同組合連合会は、函館市や地元での取り組みには微力ながら積極的に協力している。（函館）
●売上高対前年比 123.3%の実績。
・先月に引き続き、大口先の売上が好調に推移しているものの、売上規模の二極化が進んでいる。（札幌）
●６月は、ツアーの観光客が昨年よりも多く見られた。関東、関西からの修学旅行の団体の来店があり、少しずつ売上が戻ってきている。先月に引き続き外国の客船が入港し、外国人が多くみられたことで、インバウンドも戻ってきている。
・今が旬の時鮭の入荷が無く、その代わりとしてサクラマスが店頭に並んでいる。
・釧路市は長期滞在者が多く、市場にも買い物に来ている。（釧路）
●今年は、電気代の値上げの影響で、エアコンの売上が昨年と比較して大きく減少傾向にあるため、売上全体が悪化している。これから暑くなり、売上を伸ばすきっかけになってくれることを期待している。（全道）
●６月の中東原油価格をみると、月初めは１バレル当たり約 71 ドルの水準でスタートしたものの、その後上昇し、月間を通して同じく 75 ドル前後で推移した。
・北海道におけるガソリンの SS 店頭小売価格については、政府の燃料油価格激変緩和対策事業により、１リットル平均 167 円と前月と同水準で推移した。また、６月の全国ベースでのガソリン出荷量をみると、前月から一転、月間を通して前年度の水準を下回る結果となった。
・政府の燃料油価格激変緩和対策事業における補助率が段階的に縮減することから、この先 SS 店頭小売価格への影響が懸念される。（全道）
●新車の流通量が復活しているが、中古自動車の注目度は回復してきている。販売店においては中古車流通量は低下しているものの、中古全体の価格が上がっているが良質車が少ないことにより、新車よりも手頃感がある中古車小売りに関しては注目高になっている。７月１～２日に開催された中古車展示では、直近では過去最高の成約率４割をマークするものの、燃料高騰や紛争など世界的な不安要素も多く、先行きは読み切れない状況であることには変わりない。車業界的な観点からは好転していることになるが、新車の恩恵を受けられるのは２～３年後と予想されているため、中小店が淘汰されることも懸念される。また大手買取り販売店の北海道地方への連続出店により、一般の販売専業店は苦しい時代になってきたと言わざるを得ない状況であり、特に札幌以外の地域においては相当な苦戦を強いられると考えられる中、今回の展示会の成果は大きかった。（札幌）
●組合員では、原材料価格の高騰並びに様々な物価高騰による需要者の購買意欲の減退を受け、厳しい状況である。今後も厳しい市場環境が続くことが予想されることから、スマート農業や新たな生産システムへの導入を推進している。（全道）

商店街

●６月共通駐車券の利用は、前年同月比 28.7%、買物共通パス券は、前年同月比 100.0%。百貨店の閉店以降、来街者が減少傾向にある。観光・インバウンドの来街は、戻りつつある。（帯広）

サービス業

●地質調査及び建設コンサルタント業界は、受注の大半を公共事業に依存しているため、公共事業、特に建設関連事業の発注内容、量の影響を直に受ける。
・今年度の地質調査が関連する公共事業は、前年度に比べて多少発注時期が遅れており、年度全体の発注量も前年度に比べて 10%程度減少する見通しである。ただし、受注単価の目安である市場単価が前年度比 7%アップとなった。このため、民間事業に対する営業の強化、業務対象分野の拡大、地盤情報の活用に関する活動に取り組んでいる。
・停滞していた社員の給与水準を大幅に上げたい。しかし、燃料、水道光熱費、資材価格の高騰の影響が強いため、小幅な給与の昇給に留まっている。（全道）
●燃料用重油の高止まり、電気料金の大幅な値上げが営業に大きな影響を及ぼしている。料金の値上げを検討している。（全道）
●集客人数は前年対比 118%。
・海外客増加に対して、道内客の入込は減少している。
・国内、海外ともに北海道旅行ニーズは高いが、燃料の高騰＋バスの運転手不足のためバス運行手配が出来ず、販売出来る状況にない。（十勝）

建設業

●受注件数の増加と受注価格の上昇により売上高が増加しているものの、原材料費及び人件費の増加に伴い、収益は必ずしも好転しているとは言えない状況となっている。
・ただし、受注件数の増加及び売上高の増加から景況は好転の兆しがうかがえる。また、雇用人員の大きな減少はないものの、新たな人員の雇用に関しては厳しい状況にあり、事業量の増加に伴う必要な従業員の確保ができない状況にある。（札幌）
●公共工事、民間工事とも、コロナ期に発注量が抑制されてきたところから回復し、コロナ前の発注量に回復してきた。
・資材高騰、人件費高騰により、発注金額の改善交渉等も取り組んできたが、十分とは言えないものの、ある程度増額している。しかしながら、材料費、人件費、光熱費、その他経費の高騰により、収益状況は現状維持かむしろ悪化している。
・雇用人員について、新卒者の雇用がかなり厳しい状況。少子化の加速に加え、メーカー、公務員、大手業者の採用が増え、地場中小企業への入職者がかなり厳しい。待遇改善（賃上げ、働き方改革）をよほど進展させないと離職率も更に高まる懸念がある。（全道）
●【組合員の業況】
６月１日からの水道週間に合わせて、加盟組合員（６社）による恒例の市内児童公園（18 か所）の水廻り（給排水設備）点検奉仕作業を実施した。組合員は各社とも量水器取替や本管工事を受注しており、11 月頃まで忙しい状況が続く。
【問題点】
市発注の内、本管工事の入札ペースが速く、組合員は既に受注している工事との調整に苦労している。その影響から個人の設備修繕に時間を要している状況である。
【地域の実情】
農家のアスパラ収穫はピークを過ぎ、今月末で終わる予定である。（名寄）

運輸業

●農産物の荷動きについて、野菜類は当初低温・少雨の心配が出ていたが、今のところ順調に生育している。
・一般カーゴの荷動きについては、道内発道外向け貨物が少なく偏りが出ている。
・補助金の減額により燃油価格が上昇しており、また「物流の 2024 年問題」の対策等、経営環境は厳しい状況にある。（石狩）